



Calbee



カルビーグループ決算説明会  
2023年3月期 上期  
2022年4月1日～2022年9月30日

※カルビーの代産産地である北関東で撮影しています。

TSE code : 2229  
カルビー株式会社  
2022.11.7

Copyright © Calbee, Inc. All rights reserved.

## **1. 2023年3月期上期業績報告**

## 2. 2023年3月期通期計画修正

## 3. 自己株式取得

1

財務経理・IRを担当しております早川です。  
2023年3月期上期業績と通期業績予想修正および本日決議いたしました  
自己株式取得についてご説明いたします。

## 2023年3月期 上期業績

握りだそう、自然の力。  
**Calbee**

### 決算サマリ

円安の進行等によりコスト高騰が期初想定を上回ったが、国内・海外スナック販売が好調で、営業利益はほぼ計画並  
国内・海外でコスト高騰に対応した価格・規格改定を実施

- **売上高** <国内> 旅行需要の回復等によりスナックが好調  
<海外> 北米・英国・インドネシアが好調
- **営業利益** <国内> コスト高騰を改定効果で吸収できず減益、販売好調で計画は達成  
<海外> 北米が貢献、中華圏は計画に届かず  
国内：コスト高騰△53億円、改定効果+23億円  
海外：コスト高騰△19億円、改定効果+26億円
- **当期純利益** 為替差益24億円（前年同期比+22億円、計画比+24億円）

(億円)

	2023年3月期 上期実績	2022年3月期 上期実績	伸び率	2023年3月期 上期計画	計画比
<b>売上高</b>	<b>1,332</b>	<b>1,204</b>	<b>+10.6%</b>	<b>1,289</b>	<b>103.3%</b>
国内	978	934	+4.6%	960	101.9%
海外	354	270	+31.3%	329	107.7%
<b>営業利益</b>	<b>102</b>	<b>133</b>	<b>△23.0%</b>	<b>103</b>	<b>99.5%</b>
営業利益率	<b>7.7%</b>	<b>11.0%</b>	<b>△3.4pts</b>	<b>8.0%</b>	<b>△0.3pts</b>
国内	89	122	△27.1%	88	101.0%
海外	13	11	+22.2%	15	90.4%
<b>経常利益</b>	<b>127</b>	<b>136</b>	<b>△6.4%</b>	<b>101</b>	<b>126.5%</b>
特別損益	△0	△2	-	△3	-
<b>当期純利益 ※</b>	<b>83</b>	<b>92</b>	<b>△9.4%</b>	<b>62</b>	<b>134.1%</b>

※ 親会社株主に帰属する当期純利益 Copyright © Calbee, Inc. All rights reserved.

2

スライド2をご覧ください。

上期は、大幅なコストアップにより減益計画を組んでおりました。  
円安の進行とロシア・ウクライナ情勢の長期化により、想定以上のコストアップが  
発生したものの、国内・海外ともにスナックの販売が好調で、  
売上高は計画比103.3%の1,332億円、営業利益はほぼ計画通りの102億円と  
なりました。

前年に対しては、売上高は、価格改定効果もあり10.6%の増収となりましたが、  
営業利益は23%の減益となりました。

国内は旅行需要の回復に伴って土産用製品が復調しましたが、コストアップを吸収  
しきれず減益となりました。

海外は北米、英国、インドネシアが好調で増収増益となりました。

国内・海外それぞれのコスト高騰インパクト、価格改定効果はご覧の通りです。

当期純利益は、為替差益24億円の計上などにより、計画比134.1%、  
前年比9.4%減の83億円となりました。



## 2023年3月期 上期業績 国内事業

握りだそう、自然の力。

\*前年同期比

**Calbee**

### スナック

#### ■ ポテトチップス：

- 8月までは販促活動抑制により減収、9月は販促再開に伴い数量回復
- 2022年北海道産原料ばれいしよは収量増見込み

#### ■ じゃがりこ：

- コンビニエンスストアにおいてLサイズや期間限定品が伸長

#### ■ 新価値製品・その他スナック：

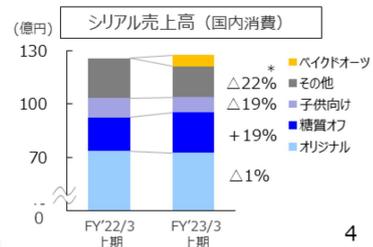
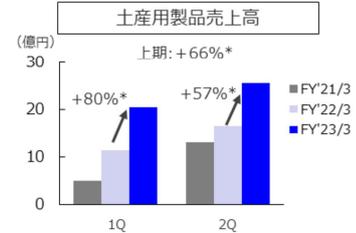
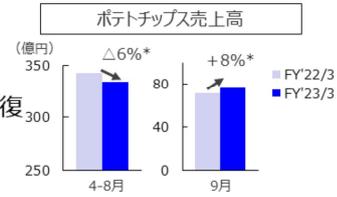
- 「じゃがポックル」等土産用製品が回復
- その他スナックはポテトチップスからの需要シフトに加え、新製品が貢献、マーケティング活動も奏功



「マイクポップコーン」CF

### シリアル

オートミール需要に対応した新製品「バイクドオーツ」と「フルグラ 糖質オフ」の2品目「ベリー＆カカオテイスト」が貢献



Copyright © Calbee, Inc. All rights reserved.

4

スライド4をご覧ください。

ポテトチップスは、原料ばれいしよ不足に伴い、販売促進を抑えたことにより減収となりました。

今年の北海道産ばれいしよの収穫は順調で昨年比で増収を見込んでおります。価格改定を実施した9月においては、店頭価格への反映は半分程度であるものの、数量の大きな落ち込みは見られず、増収となりました。

じゃがりこは、コンビニエンスストアでの販売が好調で11億円の増収となりました。

新価値製品・その他スナックでは、「じゃがポックル」などの土産用製品が回復し、前年比66%増収となりました。

また、コーン系・豆系スナックが、ポテトチップスの販促抑制影響による需要シフトとコマーシャル展開などにより好調に推移しました。

シリアルは、健康志向に対応した「バイクドオーツ」や「糖質オフ」が増収に寄与しました。

## 2023年3月期 上期業績 海外事業

掘りだそう、自然の力。  
**Calbee**

(億円)

<地域別実績>	2023年3月期上期			
		前年同期比		為替影響除く 実質伸び率
<b>海外売上高</b>	<b>354</b>	<b>+84</b>	<b>+31.3%</b>	<b>+14.2%</b>
北米	112	+35	+46.3%	+20.8%
中華圏	115	+24	+26.0%	+8.3%
その他	175	+38	+27.9%	+15.5%
リポート等控除	△48	△13	—	—
<b>海外営業利益</b>	<b>13.5</b>	<b>+2.5</b>	<b>+22.2%</b>	<b>—</b>
営業利益率	<b>3.8%</b>	<b>△0.3pts</b>	—	—
北米	5.9	+5.4	+1,050.6%	—
中華圏	4.6	△1.9	△28.9%	—
その他	3.0	△1.1	△27.3%	—

※ 地域別の売上高はリポート等控除前の金額を記載しています。

Copyright © Calbee, Inc. All rights reserved.

5

スライド5をご覧ください。

海外の地域別売上高、営業利益はご覧の通りです。  
北米が売上・利益ともに貢献しました。

北米、中華圏、その他の増減要因については、次のスライドでご説明します。

## 2023年3月期 上期業績 海外事業

掲げだそう、自然の力。

\*前年同期比

**Calbee**

### 北米

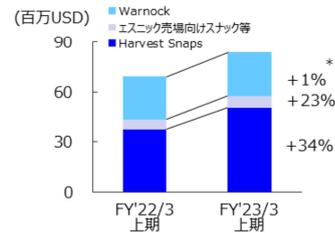
#### ■売上高

- 「Harvest Snaps」はパッケージリニューアルや製品ラインアップ拡充等のマーケティング活動と改定効果で伸長
- エスニック売り場向けは「かっぱえびせん」が好調

#### ■営業利益

- 増収効果と価格・規格改定効果により増益

北米 売上高 (+21%\*)



### 中華圏

#### ■売上高

- スナックは「Honey Butter Chip」やBaby & Kids向け、シリアルは「フルグラ 糖質オフ」が伸長
- ロックダウンの影響で、一部製品の発売や小売店舗での展開に遅れ

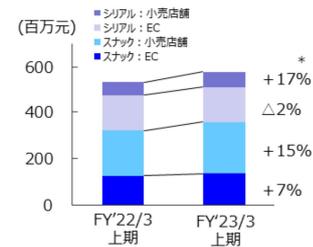


Baby & Kids向け製品

#### ■営業利益

- ブランディング、販売強化のためのプロモーション費用を計画通り投入

中華圏 売上高 (+8%\*)



### その他地域

- 売上高は、英国とインドネシアが貢献
- 営業利益は、輸送コストや原材料価格の高騰を改定効果で吸収できず減益

Copyright © Calbee, Inc. All rights reserved.

6

スライド6をご覧ください。

北米は、昨年度に続き2回目の価格改定を行った「Harvest Snaps」が好調で増収となりました。

パッケージリニューアルや製品ラインアップ拡充が奏功し、順調に数量を伸ばすことができている。

営業利益は、増収効果と価格改定効果により増益となりました。

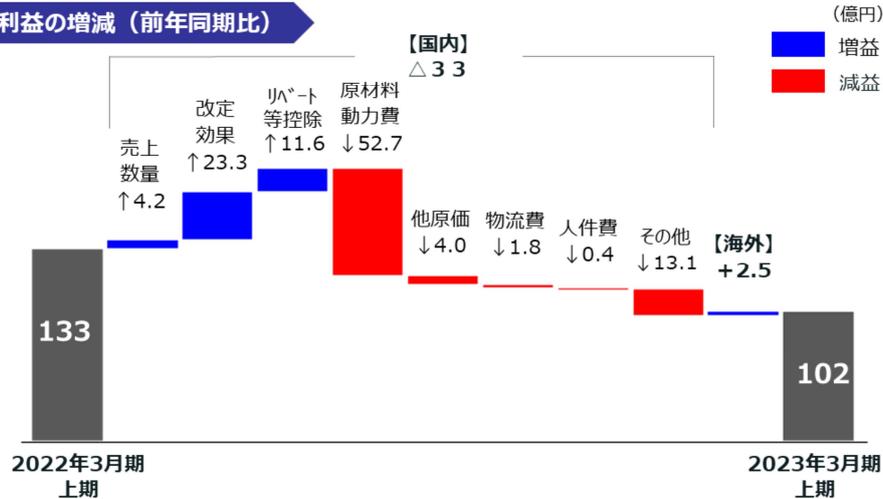
中華圏は、ロックダウンの影響で一部製品の発売や小売店舗での展開に遅れが発生し、増収となったものの、計画に対しては売上・利益ともに大きく遅れる結果となりました。下期も引き続き、ロックダウンの影響を受けながら事業を進めることとなりますが、ブランディング投資や重点製品、重点チャネルの強化を図ってまいります。

その他地域は、英国、インドネシアが売上・利益ともに好調でしたが、オーストラリアや韓国が、輸送費や原材料などのコストアップを吸収できず、減益となりました。

## 2023年3月期 上期業績 営業利益分析

握りだそう、自然の力。  
**Calbee**

### 営業利益の増減 (前年同期比)



【国内】	リポート等控除 : ばれいしょ不足影響によりポテトチップスの販売費を抑制
	原材料・動力費 : 食油(△6億円)、輸入原料(△11億円)、国産ばれいしょ(△6億円)、包材(△9億円)、動力費(△12億円)
	他原価 : 減価償却費(△2億円)、生産性(△2億円)
	その他 : 社会経済活動の正常化に伴う費用増
【海外】	改定効果(+26億円)、原材料・動力費(△19億円)

Copyright © Calbee, Inc. All rights reserved.

7

スライド7をご覧ください。

営業利益の減少要因についてご説明します。

連結全体で31億円の減益となりましたが、これは国内が減益になったことによるものです。

国内は、価格改定効果23.3億円や、ばれいしょ不足に伴う販促抑制11.6億円があったものの、コスト高騰52.7億円をカバーできず、33億円の減益となりました。当初のコストアップ見込みは45億円でしたので、8億円想定を上回る結果となりました。

コスト高騰の内訳としては、原材料で41億円、動力費で12億円です。原材料価格アップの主なものとしては、輸入原料11億円（輸入ばれいしょなど）、その他包材、食油、国産ばれいしょなどになります。金額はそれぞれご覧の通りです。

海外は、コスト高騰19億円を価格改定効果26億円でカバーし、2.5億円の増益となりました。

**1. 2023年3月期上期業績報告**

**2. 2023年3月期通期計画修正**

**3. 自己株式取得**

8

続きまして、2023年3月期通期計画の修正について、ご説明いたします。

## 2023年3月期通期計画修正

握りだそう、自然の力。  
**Calbee**

### 修正計画サマリ

国内・海外のスナック販売が好調であるものの、円安の進行やロシア・ウクライナ情勢の長期化により、動力費や原材料価格の高騰が期初想定を上回る

売上高：+60億円の上方修正、営業利益：△35億円の下方修正、当期純利益：変更無し

- ◆ 通期利益影響 コスト高騰：国内△133億円・海外△40億円、為替差益：+27億円
- ◆ 下期のアクション
  - ・売上計画達成に向けての製品投入、販売促進
  - ・中華圏等への輸出拡大
  - ・製造経費、販管費の抑制
  - ・来年度以降の価格・規格改定検討

(億円)

	2023年3月期 通期計画(期初)	2023年3月期 通期計画(修正)	修正額 (vs期初計画)
<b>売上高</b>	<b>2,680</b>	<b>2,740</b>	<b>+60</b>
国内	1,995	2,013	+18
海外	685	727	+42
<b>営業利益</b>	<b>255</b>	<b>220</b>	<b>△35</b>
営業利益率	9.5%	8.0%	△1.5pts
国内	217	182	△35
海外	38	38	-
<b>経常利益</b>	<b>250</b>	<b>250</b>	<b>-</b>
特別損益	△5	△5	-
<b>当期純利益</b> ※	<b>155</b>	<b>155</b>	<b>-</b>

※ 親会社株主に帰属する当期純利益

Copyright © Calbee, Inc. All rights reserved.

9

スライド9をご覧ください。

さきほど、上期のコストアップは想定を8億円上回ったとご説明しましたが、下期は、為替の変動により、さらなるコストアップを見込んでおります。10月末の為替水準1ドル=148円を基準としますと、下期だけで40億円のコストアップが見込まれます。

9月に大きな価格改定を行った国内スナックの販売強化、中華圏向けの輸出強化、全社規模でのコスト削減を行っていきませんが、これらでは吸収できない見通しであることから、通期の営業利益を35億円下方修正いたします。当期純利益は為替差益の発生により、当初の見通しから変更ありません。

コストアップを吸収すべく、来年度以降の価格・規格改定の検討、準備を進めてまいります。

1. 2023年3月期上期業績報告

2. 2023年3月期通期計画修正

3. 自己株式取得

## 自己株式取得

2022年11月7日の取締役会において、120億円を上限とする自己株式取得を決議

### ■ 目的

株主の皆様への一層の利益還元と資本効率の向上

### ■ 内容

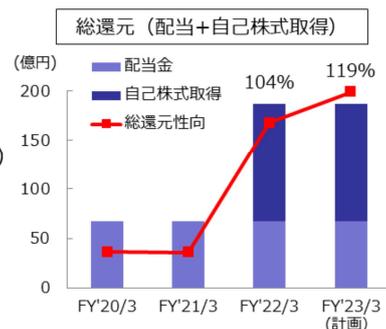
金額：120億円（上限）

株数：5,000千株（上限）

（発行済株式総数（自己株式を除く）に対する割合3.87%）

期間：2022/11/8～2023/3/31

方法：東京証券取引所における市場買付



スライド11をご覧ください。

最後に、本日の取締役会で決議されました、自己株式の取得についてご説明します。  
昨年度と同規模の120億円を上限に明日から買付を行います。  
上限まで取得した場合の総還元性向は119%となる見通しです。

以上でご説明を終了いたします。ありがとうございました。

## 參考資料

# 連結損益計算書

掘りだそう、自然の力。  
**Calbee**

(百万円)

	2023年3月期 第2四半期				2023年3月期 上期			
		構成比 (%)	前期比 (%)	計画比 (%)		構成比 (%)	前期比 (%)	計画比 (%)
売上高	67,888	100.0	+12.1	101.9	133,212	100.0	+10.6	103.3
売上総利益	21,649	31.9	+3.7	99.9	42,776	32.1	+1.6	101.2
販売管理費	16,766	24.7	+15.5	101.7	32,529	24.4	+13.0	101.8
販売費	2,735	4.0	+39.1	93.0	5,004	3.8	+25.9	95.1
物流費	5,360	7.9	+9.1	100.0	10,686	8.0	+10.6	103.0
人件費	5,329	7.8	+6.3	101.7	10,329	7.8	+5.6	100.2
その他経費	3,340	4.9	+27.3	113.6	6,508	4.9	+21.2	108.1
営業利益	4,883	7.2	△23.3	93.9	10,246	7.7	△23.0	99.5
経常利益	5,755	8.5	△12.0	113.5	12,711	9.5	△6.4	126.5
特別損益	+31	-	-	-	△7	-	-	-
当期純利益 ※	3,758	5.5	△11.0	121.2	8,311	6.2	△9.4	134.1

※ 親会社株主に帰属する当期純利益

Copyright © Calbee, Inc. All rights reserved.

13

# 連結損益計算書 2023年3月期通期計画修正

掘りだそう、自然の力。  
**Calbee**

(百万円)

	2022年3月期		2023年3月期 (期初計画)		2023年3月期 (修正計画)	
		構成比 (%)		構成比 (%)		構成比 (%)
売上高	245,419	100.0	268,000	100.0	274,000	100.0
売上総利益	83,954	34.2	89,700	33.5	86,200	31.5
販売管理費	58,818	24.0	64,200	24.0	64,200	23.4
販売費	8,278	3.4	10,600	4.0	10,600	3.9
物流費	20,044	8.2	21,000	7.8	21,000	7.7
人件費	19,584	8.0	20,900	7.8	20,900	7.6
その他経費	10,911	4.4	11,700	4.4	11,700	4.3
営業利益	25,135	10.2	25,500	9.5	22,000	8.0
経常利益	26,938	11.0	25,000	9.3	25,000	9.1
特別損益	△190	—	△500	—	△500	—
当期純利益 ※	18,053	7.4	15,500	5.8	15,500	5.7

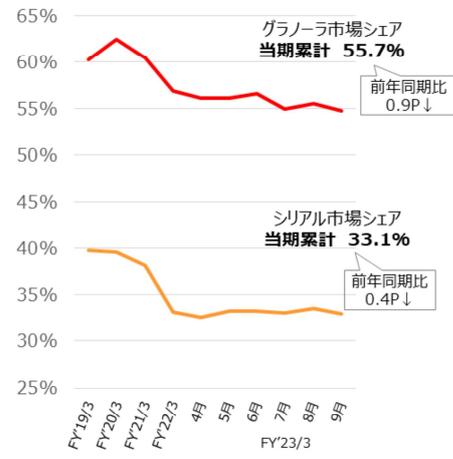
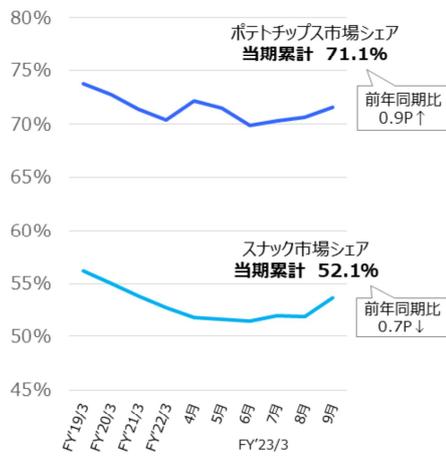
※ 親会社株主に帰属する当期純利益

Copyright © Calbee, Inc. All rights reserved.

14

# 国内市場シェア

握りだそう、自然の力。  
**Calbee**



出所：株式会社SRI+ 全国全業態 金額ベース  
 当期累計：2022年4月～2022年9月  
 前年同期：2021年4月～2021年9月  
 FY19/3-FY22/3：2018年4月～2022年3月

スナック市場シェア：カルビーとジャパンフritoレーの合計  
 ポテトチップス市場：ポテトチップス(生薄切り・生厚切り)・ポテトシュー・スト・ケトル合算、非公開PB含む  
 グラノーラ市場：シリアル市場・グラノーラ・カカオ

本資料に関するお問い合わせ：

カルビー株式会社 IR部

E-mail：2229ir@calbee.co.jp

<https://www.calbee.co.jp/ir/>

- グラフ上の事業年度表記はFY(Fiscal Year)を用いています。FY2023/3(FY'23/3)は2023年3月期を指しており、他の事業年度も同様に表記しております。特にその指定がない表記は、暦年を表しています。
- 本資料に掲載されている、当社の現在の計画、見通し、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に係る見通しであり、これらは、現在入手可能な情報から得られた当社の判断に基づいております。当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績は、今後様々な要因によって、大きく異なる結果となる可能性があります。
- 本資料には、監査を受けていない参考数値が含まれます。

## 2022年11月7日開催 2023年3月期第2四半期決算説明会での主な質疑応答

### 【上期業績について】

#### Q1 今年度実施した値上げの手応えは。ポテトチップス以外の状況も教えてほしい。

9月より出荷価格を上げているが、ポテトチップスの店頭価格への反映は半分程度。ばれいしょの収穫が順調なことから、適切な販売促進活動を進めていることもあり、数量の落ち込みは見られない。じゃがりこの店頭価格への反映は8-9割程度で、数量はほぼ値上げ前の水準で推移している。それ以外の製品についても、店頭価格への反映は100%ではないが、数量の極端な落ち込みは見られない。

10-11月と店頭価格への反映が進むにつれて消費動向が変化する可能性があるので、注視したい。

#### Q2 新価値製品・その他スナックの売上について、土産用製品とそれ以外に分けて計画に対する進捗を教えてほしい。

土産用製品の2Q(7-9月)の売上は26億円で計画比+6億円弱と好調に推移。それ以外のコーン系や豆系スナックも計画を上回った。

なお、上記土産用製品の売上には新価値製品・その他スナック以外のじゃがりこ等の売上も含まれている。じゃがりこは、一般流通チャネル、土産用製品ともに計画を上回った。

#### Q3 海外での改定状況について教えてほしい。

上期の改定効果26億円のうち、北米が9億円、英国が11億円で、残りが中華圏・インドネシア・豪州等。北米は2Q(7-9月)に2回目の価格改定を実施したが、1Q(4-6月)に引き続き好調で数量が伸長した。

### 【通期見通しについて】

#### Q4 修正した営業利益220億円の増減要因分析について教えてほしい。

原材料・動力費のコストアップにより、原価が35億円悪化する見込み。

価格・規格改定効果は、上期において11億円計画を上回ったが、下期は計画通りを見込む。通期では83億円となる見通し。

#### Q5 為替ヘッジしているにも関わらず、想定以上のコストアップが発生する理由は？

国内は通期で期初想定よりも43億円のコストアップが発生する見通し。内訳は動力費と原材料で半分ずつ。

動力費のさらなる値上がりについては、期初時点で見通すことが難しかった。

原材料の想定以上の高騰は、為替の急激な変動によるもの。経常利益は為替差益の発生により期初計画から変更はないが、営業利益は輸入原材料すべてをヘッジしていないため為替変動の影響を受ける。

#### Q6 海外は営業利益の見通しを修正していないが、国別の状況を教えてほしい。

中華圏は未達の見通しだが、北米およびその他の地域でカバーし、海外全体では計画を達成できる見通し。

北米は、上期はCalbee North Americaの好調により計画を達成。ただし、Warnockは新規OEMを受託しているものの大口顧客のOEMが減少し、売上は1%増収にとどまった。下期も上期と同様の傾向が続く見通し。

中華圏は、通期11億円の増益計画に対して、進捗は思わしくない。ロックダウンの影響で、卸とのリレーション強化による配荷拡大ができていない。ECを強化しているが、再度コロナ感染者数が増えているという情報もあり、通期の計画達成は黄色信号。

**【来期の見通しについて】**

**Q7 事業環境が変化する中で、来期の営業利益 300 億円の達成の確度をどうみているか。**

**来期 300 億円を達成できるだけのさらなる価格改定は可能か。**

コスト上昇分を価格に転嫁していく方針に変わりはなく、300 億円達成に向けて、価格改定の検討を開始した。

海外は、北米・英国を中心にコストアップを価格改定でカバーできており、当期、来期の見通しに大きな変更はない。

一方、国内は、今後様々な食品の価格が値上がりする中で、消費が冷え込むことも想定される。値上げ直後の販売数量動向は悪くないが、少なくとももう数か月進捗をみて判断したい。価格を上げたとしても数量が落ちれば計画達成できないため、タイミングや規模については慎重に決定する。国内の改定タイミングが遅ければ、来期 300 億円に届かない可能性はあるが、来期、再来期等の複数年度でコストアップを吸収していきたい。

以上